

評価項目	重点目標	具体的対策（手段）及び数値目標	学校の自己評価コメント	評価	学校関係者評価のコメント
【確かな学力の向上及び個に応じた教育の推進】	(1) 教育課程の工夫や指導方法の工夫改善に努め、教師の指導力の向上と児童達成感をもつ授業の展開	○ 指導方法の工夫改善に努め、分かる授業の評価率を90%以上とする。 ○ 算数Web学習単元評価システムを100%実施し、その有効活用を図る。	・主題研究でユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、アセスメントシートを使って学級集団及び個々の児童の特徴を把握し、全ての児童に望ましい学習環境と学習指導を提供する授業作りに取り組んでいる。 ・OHCや大型液晶テレビ等を活用して、より分かる授業の実践に努めている。	3	3 ・多方面から日々研究し、指導している。 ・個に応じた指導を心掛け、学力の向上に努力している。学習到達度を家庭と共有し、さらに充実に努めてほしい。 ・知識が広く、興味深い科目である社会、理科において県平均を上回ったことは、指導の成果が上がっているととらえられる。 ・教育機器の活用にも工夫しており、今後も続けてほしい。 ・AI等の人工知能の進歩が急速で、スマホやタブレットは今後さらに普及して子どもたちに持たせる時代になりつつある。使い方を指導し、指導に活用していくことが大切である。 ・基本的な学習習慣の定着に学年差がある。保護者と連携して、児童が感動する授業及び家庭学習の習慣化を図ることが大切である。 ・特別支援教育の充実が図られ、個に応じた指導を通じて、困り感のある児童に積極的に対応している。 ・児童アンケートを踏まえ、次年度は姿勢・発表の取組を充実する必要がある。
	(2) 自らの考えを深めていく児童の育成	○ 算数科において、T・Tや少人数指導の指導方法を工夫することにより、CRTの結果を前年度より上回る。	・算数科におけるT・Tや少人数指導を通じて、個に応じたきめ細かな指導に努めている。 ・みやざき小中学校学習状況調査は、全教科県平均水準で、社会・理科は県平均を上回った。	3	
	(3) 個性の伸長を図り、学級の支持的風土を育みつつ高め合う集団の中の一員としての学習習慣の育成	○ 学校が楽しいと思う児童の割合を増やすとともに、欠席率を前年度より下回る。	・1学期の欠席率は1日平均8.6人で、昨年度の8.9人と比較して若干改善している。 ・学びの構えについて共通理解・共通実践し、学習態度に落ち着きがでてきている。	3	
	(4) 個性に対応した特別支援教育の充実	○ 個に応じた指導を行うことにより、困り感のある児童に積極的に対応し、その割合を減らしていく。	・特別支援教育校内委員会や就学相談委員会を計画的に開催し、支援体制の充実を図るとともに、必要に応じてケース会議を実施し、児童の困り感の軽減に努めている。 ・個別の支援計画・指導計画を作成し、保護者及び関係機関等と連携して取り組んでいる。	3	
【生命を尊び、豊かな心を育む教育の推進】	(1) 生命尊重を図る指導の充実	○ 体育の時間の充実及び戸外活動を推奨することにより、体力テストの結果を前年より上回る。 ○ お弁当の日の取組等、食への関心を高める取組を実施する。	・教科体育の充実に取り組み、体力テストにおいて、全ての学年で前年度よりDE段階児童の割合が減少した。また、市水泳記録会や市陸上競技大会で好成績を収めた。 ・各学年の校外学習の機会に「広っ子お弁当の日」に取り組んだ。	3	3 ・日常のきめ細かな指導の成果が感じられる。 ・子どもたちがテレビのお笑い番組等での言動を真似るなど、影響を大きく受けていると感じる。保護者の意識高揚が大切であり、困難点もあると思うが、継続的な指導が必要である。 ・挨拶の音量は個人差があるが、登下校時での挨拶はよくしてくれる。また、心を込めた挨拶ができていて感じている。 ・教科外の教育活動や生活指導の時数も十分に確保することが必要である。 ・いじめはどこの学校でも起こり得ることを認識し、適切に対応することが大切である。また、いじめ側が100%悪いということも、PTAとしても、もっとしっかり打ち出したい。 ・個々の児童が生を受けた喜びに感謝し、命に真剣に向かうことが大切である。 ・グローバル化の時代で、日本人として正しい箸の持ち方ができることがますます大切である。 ・児童アンケートを踏まえ、次年度は朝ボラ、清掃の取組を充実する必要がある。
	(2) 人間尊重を基盤に据えた人権教育の推進	○ 全学級、偏見や差別のない安心感のある学級作りを目指す。	・支持的な学級風土の醸成、教育相談週間やいじめ根絶週間の実施、10月参観日における「人権教育に関する授業」の公開に取り組んだ。 ・教職員の人権意識及び学級経営力を高めていく必要がある。	3	
	(3) 心の教育の推進のための道徳及び読書活動の充実	○ ファミリー読書、読書貯金等の取組や日常の読書活動を充実させることで、貸出数を昨年より上回る。 ○ ボランティア（挨拶運動・清掃）の参加者を増やす。	・平成30年度から全面実施の小学校学習指導要領における道徳の教科化に向けて、年間指導計画の別葉を作成した。 ・1学期の目標冊数達成率は58%、夏の親子読書取組率は91%だった。また、11月を読書月間とし、学年読書集会、親子読書に取り組んだ。	3	
	(4) 安心・安全な教育環境の整備	○ 事故・事件の未然防止に努め、交通事故0を目指す。	・安心・安全な教育環境の整備に努めた。今後、校内生活安全の指導に力を入れて、危険予測能力の育成を充実していく。	3	
【地域に信頼される学校教育の推進】	(1) 地域の人材を活かした学校経営・教科指導の充実	○ 効果的な教科指導を行うため、体験活動を多く取り入れる。 ○ 児童の安全・安心に繋がる地域との連携を更に強化する。	・地域づくり協議会、自治会、民生委員児童委員等から支援や協力をいただいている。今後、授業支援等、より一層の連携を図っていきたい。	3	3 ・学校と地域の連携が密なほど健全な子どもが育つ。広瀬小学校区地域づくり協議会と連携し、地域の人材を授業支援に是非取り入れ、子どもたちと地域の方々が交流する機会の充実を進めていきたい。 ・日頃から子ども・親・教職員と地域の方々との交流ができていくことが大切である。 ・ホームページ更新、まちこみメールでのリンクを工夫すると、アクセス件数も上がる。
	(2) 学校の様子を学校だより・ホームページ等で学校情報の発信	○ ホームページのリニューアルを図るとともに、頻繁に更新することにより、アクセス数を前年度より上回るようにする。 ○ 無理なく効果的で長期的に取り組める連携を模索していく。	・9月に学校ホームページをCMS版にリニューアルし、随時更新し、2月27日現在のアクセス件数は13018件となっている。また、月1回学校だより発行するとともに、まちこみメールを活用して情報提供に努めている。	3	